

特別寄稿

思川開発事業による
安定水源の確保を

茨城県五霞町長

大谷 隆照



当町の水道事業は、昭和37年に一部地域の簡易水道事業の認可を受け、地下水を水源とする給水が開始されました。その後、首都圏50km圏内の立地条件を生かした企業の誘致や住宅地開発等、地域経済の活性化に伴い人口の増加が図られ、それらによる社会環境の変化に対応するため、更なる水道事業の拡張が行われ、昭和63年には町内全域に上水道による給水が開始されました。

また、一方で当地域は地下水汲み上げによる地盤沈下現象が著しく、地下水の汲み上げが規制され、地下水から表流水への転換を余儀なくされました。そのような状況下、地下水に変わる水源の確保が急務となり、利根川表流水を水源とする第2次拡張事業が計画され、思川開発事業による暫定水利権を取得、現在に至っております。

思川開発事業は、実施計画調査着手以来30数年が経過し、国の大型公共工事の見直しなど、脱ダム風潮の中で計画が継続されたことに対し、関係各位のご努力に感謝を申し上げます。今後とも、より安定した水源の確保を図るためにも、一日も早い事業の完成を期待するものです。なお、ダム建設に関係する地域の皆様方と、住み慣れた地を離れる水没地域の皆様の思いに対し、深く感謝を申し上げます。

今後の事業実施にあたりましては、低迷した経済状況を考慮した事業費の縮減と自然環境を考慮した事業の実施をお願いいたします。

最後に、工事期間中における皆様方の安全をご祈念申し上げます。

水資源開発公団は、水源の開発と利用のため、事業を行なうことにより、国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することを目的に昭和37年に設立され、以来40有余年、国民生活や産業に於てはならぬ水や水の安定供給や洪水防止等に大きな役割を果たして参りま

した。しかしながら、近年、日本経済が厳しい状況にあることも反映して、利水者なる抑制を要請されるとの旨から事業コストの更なる削減が求められていくことが国民の皆様のご意見を聞き、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」ということをモットーに、10月1日「水資源開発公団」は、独立行政法人として生まれ変わります。

私たちが、こうして自己改革に努力し、水資源開発公団から、これまで以上に効率的で質の高いサービスを行う「独立行政法人水資源機構」へと転換を図り、水利者や国民の皆様のご協力、信頼を頂けるとともに、ご支援とご協力をお願いいたします。

水資源開発公団は水資源機構(十月一日)に変わります

安全で良質な水を安定して安く皆様へお届けするため



南摩ダム予定地 (右後方は男体山)

発行所
水資源開発公団
思川開発建設所
☎028-622-8941
発行人兼編集人
柴田 安宏



代替地造成工事が完成

南摩ダムにより移転を必要とする皆様のある皆様の代替地である上南摩集団移転地が昨年12月に、西沢集団移転地も少し遅れましたが本年3月にそれぞれ造成工事が完成しました。現在、現地では建築ラッシュの状況になっていきます。

一方、完成した代替地には移転者の皆様の夢を託した名称が決まりました。上南摩代替地は「思い川団地」、西沢代替地は「光ヶ丘団地」と、それぞれ移転者の皆様から出されたたくさんの方の中から、最終的には阿部鹿沼市長にお願いして、決定していただきました。

今後、建築工事は最盛期を迎え、早い方は5月連休明けに引っ越しが行われ、その他の方も年内には新しい家での生活を開始される予定です。公団といたしましては、移転者の皆様が生きていく土地での生活に早く慣れ親しんでいただくよう、サポートしてまいります。



建築工事が進む
思い川団地(上南摩代替地:写真右)と
光ヶ丘団地(西沢代替地:写真下)



水を大切に!



鹿沼市立上南摩小学校4年生総合学習

去る2月18日、思川開発建設所会議室にて、野外授業として、上南摩小学校の4年生11名が学習会に参加しました。

児童には、紙芝居式のパンフレット「水や生き物、ダムのはなし」と「南摩川の生き物たち」と題した下敷きを手渡し、公団の若手職員がパワーポイントを使ってスクリーンにパソコンの画像を映し出し、水の大切さや南摩川の生き物たち、南摩川の水質、南摩ダムについての説明を行いました。初めは少し緊張気味だった児童たちも、ココアを片手に手渡された紙芝居式のパンフレットを見ながら説明を聞き、また、学習の一環で南摩川の水質や生き物の種類などの調査成果と照らし合わせながら、興味津々で説明を聞いていました。

一連の説明が終わると、質疑応答の時間には児童全員からいろいろな質問がきました。質問には、「南摩ダムに貯まる水の量は、ダムを造るのにはどれくらいお金がかかるの?」「ダムの大きさや重さ、調査開始時期は?」など、さすがの公団職員も数字では答えられても、小学生のみならずにイメージで理解してもらおうために、相当苦労をしながら答えていました。中には、南摩川がいつ出来たのかなど、その場では答えられない質問も飛び出しました。



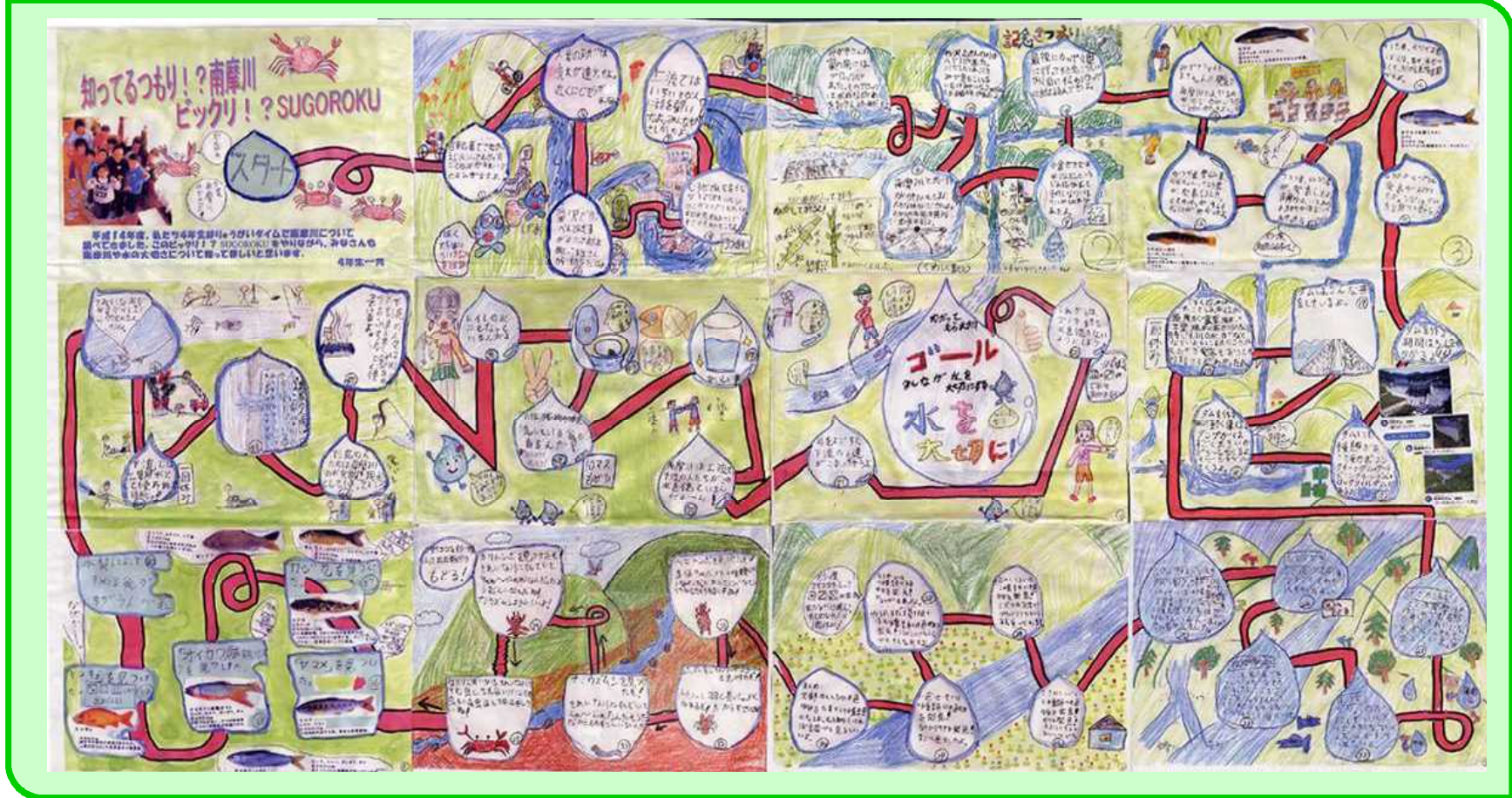
公団担当者の説明に熱心に聞き入る子供たち

後日、児童一人ひとりからお礼のお手紙をもらい、「水のお大切さや南摩ダムのことがいろいろ分かった」等々、職員一同、手紙を見て心を打たれるものがいくつもありません。ここで全てをご紹介できないのは本当に残念ですが、「児童が手作りで作ってくれた「すごろく」を紹介させていただきます。」

これからもこのような学習会を行って、自然環境やダム事業のご理解を得られるよう、職員一丸となって頑張っております。

事業に興味を持ち、理解しようとする気持ちがあつてくわたり、児童たちの素直な考えが聞けたことに十分満足できました。

児童手作りの「知ってるつもり? 南摩川ビックリ!? SUGOROKU」だよ!



<サイズ 縦60cm×横110cm>

人事異動

4月1日付で転入・転出のありました職員を紹介します。

転入者	「よろしくお願ひします」【前任地】
副所長	加藤宏基 (ダム水源環境整備センター)
環境課長	椎名教之 (利根川河口堰管理所)
工務課長	池上眞二 (本社第一工務部)
第一用地課	松澤俊一 (岩屋ダム管理所)
第二用地課	北嶋慎也 (徳山ダム建設所)
第三用地課	渡辺淳一 (本社管理部)
調整課	東千晃 (中部支社総務部)
調整課	荒木段 (徳山ダム建設所)
調整課	犬童眞二 (大山ダム建設所)
調整課	西岡芳尚 (本社第一工務部)
転出者	「お世話になりました」【転出先】
調査役	浦野 勇 (霞ヶ浦開発総合管理所)
調査役	西村政幸 (本社用地部)
第一用地課	山田敏行 (豊川用水総合事業部)
第二用地課	神山綾寿乃 (本社人事部)
調整課	生方秀幸 (豊川用水総合事業部)
調整課	小田桐篤 (本社経理部)
調整課	長谷見智久 (徳山ダム建設所)
調整課	金山明広 (下久保ダム管理所)
環境課	
所内異動	
調査役	村上慶司 (工務課長)
第二調査設計課長	小笠原幹生 (環境課長)

第三用地課の新設

思川開発建設所では、南摩ダムの補償業務が本格化する一方、取水・導水地区業務の進捗を図る必要があることから組織の強化、充実を図り、本年4月に取水・導水地区の用地業務を担当する第三用地課を新設しました。

取水・導水地区の技術業務を担当する調整課ともども地域の皆様方に密着した業務を進めてまいり所存です。よろしくお願ひ致します。



「思川だより」第7号を皆様方に届けたいと考えております。感謝し

ております。また、思川開発建設所も新年度を迎え、新しい職員も加わり、体制をより一層充実させ、今まで以上に所長以下職員一丸となって事業の早期完成を目指して頑張りますので、皆様方のご指導、ご支援を今後ともよろしくお願ひします。

